

1 【見よ わたしは新しいことをする】

F C F
見よ わたしは新しいことをする
F Am Gm C7
今 もうそれが起ころうとしている
Gm C7 Am D7
荒野に道を 荒地に川を
Gm C7 B♭ C7
荒野に水が川のように

B♭ Am D7
この地のすべての人々が
Gm C7 F F7
主の御名を崇める
B♭ Am D7
この地のすべての人々が
Gm C7 F
主の栄誉を宣べ伝える

【Welcome あなたを】(F)

F Gm F/A B♭ C
天と地は 栄光を 大空は み業を示す
Am Dm D Gm
それでも あなたは 私たちの賛美を
G C7
住まいとして選ばれる
F Gm F/A B♭ C
WELCOME あなたを WELCOME 今むかえます
Am Dm D
賛美の中に あなたはおられるから
Gm F/A B♭ F/A Gm C7 F
さあ手をあげ 声をあげて 今あなたをたたえます

<慕い求めます>

イエス 愛します 愛します 心注ぎ
ただ あなただけ 慕い求めます
あふれる あふれる あなたを慕う思い
みそばに ひきよせて 主よ 慕い求めます

5 祈りのガイドライン

1. 賛美と感謝の祈り
2. 悔い改めと主を慕い求める祈り
3. 個人的な願いの祈り
4. とりなしの祈り

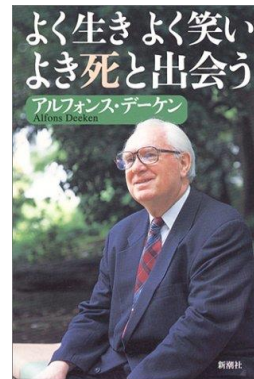
- ・瀬戸カルバリーチャペル
- 魂の救いと地域の伝道のため
- 教会員とご家族がコロナから守られますように。
- インターネット YouTube が用いられるように。
- 病いや困難と闘っている兄弟姉妹のため
- ライブアートスタジオのこれからのため
ウクレレ教室/キッズ英語教室/クリスマス CD
- ・大和カルバリーチャペルと大川牧師ご夫妻のため

5. 日本と世界の平和を願って...

- 日本の国の霊的回復とリバイバルのため
- 中国・香港問題・南シナ海に主の憐みを
- 韓国と北朝鮮のため。拉致問題の解決のため
- アメリカ大統領選と加州山火事のため
- イスラエルの平和のため

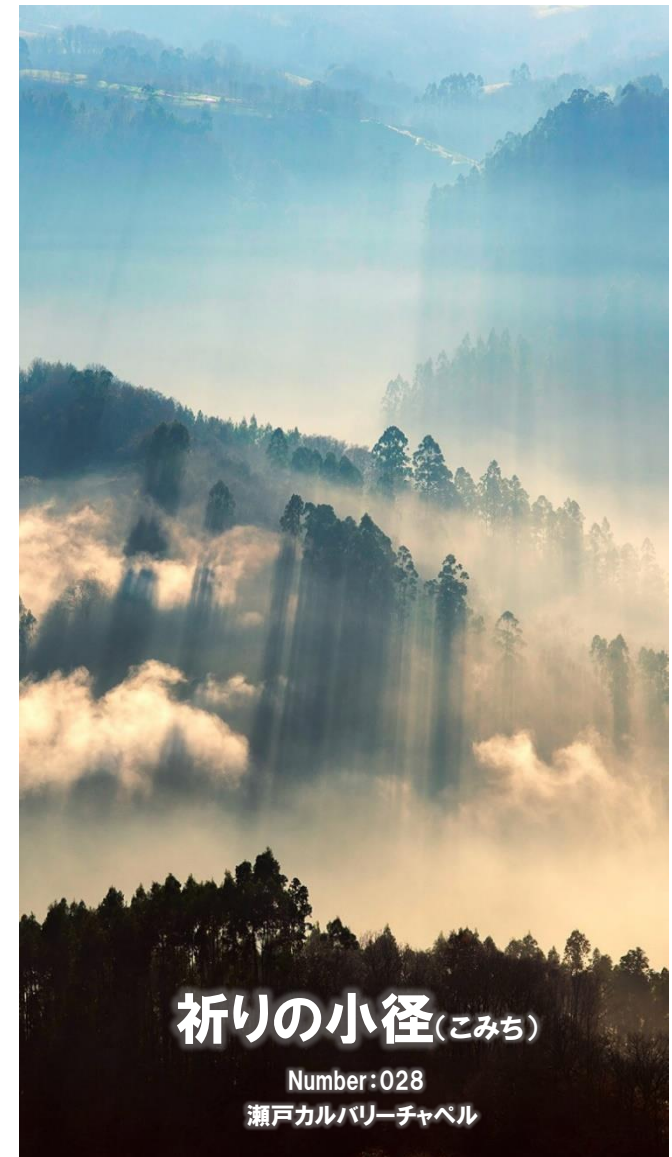
1934年ドイツ・オルデンブルク生まれのイエズス会司祭、哲学者。1959年に来日。上智大学名誉教授。専門は、死生学。今年9月6日に帰天。

私は「何もデーケン」と語り、死生学を教えながらも「ユーモアと笑い」がどれほど大切であるかを教えた。



瀬戸カルバリーチャペル
Seto LIFE ART Studio

愛知県瀬戸市みずの坂 5-64 0561-48-8899
牧師：倉知契 kei.kurachi@gmail.com



「祈りの小径(こみち)」の名称は、愛知県瀬戸市・せともの街の名所「窯垣の小径」と、詩人・八木重吉の作品にある「祈りの路」から名付けられました。各ページにある数字の順に、賛美→聖書→黙想→解説→祈りを致しましょう。

2 今日の聖書のことば

ゆっくり読んで黙想しましょう。

ペテロの第二の手紙1章16～21節

16 わたしたちの主イエス・キリストの力と来臨とを、あなたがたに知らせた時、わたしたちは、巧みな作り話をういることはしなかった。わたしたちが、そのご威光の目撃者なのだからである。17 イエスは父なる神からほまれと栄光とお受けになったが、その時、おごそかな栄光の中から次のようなみ声がかかったのである、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。18 わたしたちもイエスと共に聖なる山にいて、天から出たこの声を聞いたのである。19 こうして、預言の言葉は、わたしたちにいつそう確実なものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くもしびとして、それに目をとめているがよい。20 聖書の預言はすべて、自分勝手に解釈すべきでないことを、まず第一に知るべきである。21 なぜなら、預言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に感じ、神によって語ったものだからである。

ピリピ人への手紙2章14～15節

14 すべてのことを、つぶやかず疑わないでなさい。15 それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪な時代のただ中であって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。

3 黙想とところの投影の時間

(感じたこと・恵まれたことをノートします)

質問

Q1. 私たちは「ご威光の目撃者」と言えますか？

Q2. イエス様に出会った経験を書いてください。

Q3. Q2の経験は、どんな変化を私たちにもたらせましたか？

4 みことばの解説

使徒ペテロが、自分の人生を「幕屋 (tabernacle)」と表現したのにはいくつかの意味があります。ひとつは、**人生は旅であり、人間は旅人である**からです。

今年9月に天に召されたアルフォンス・デーケン先生(40年死生学を教え続けた上智大学の教授・司祭)は、人生は旅であり、その中で大切なものは、誰と一緒に歩むかという「**出会い**」と、どの道を選んでゆくかという「**転機 (ターニングポイント)**」であると語っています。とくに「**出会う**」という言葉には「**狭い自己の殻から出て、心を開いて相手に会う**」という意味が込められている。

イスラエルの田舎ガリラヤの漁師であったペテロにとってイエス様との出会いは、まさに自分の殻を破る出会いであり、人生のターニングポイントでした。もし私たちがいま「**転換期**」を迎えていると感じるならば、再びイエス様と出会うことを意識するべきでしょう。舟や網を置いてでもイエス様にお従いする心で、イエス様を求めてゆきたいと思わされます。

もうひとつ、ペテロは変貌山と呼ばれる山の上で、イエス様の栄光の姿に出会った経験がありました。そのとき、彼は「**3つの小屋**」を建てたいと申し出ました。これは「**幕屋**」という言葉なのです。ペテロの手紙でも同じ言葉(派生語)を使いました。つまり彼は、幕屋とは「**建物**」ではなく「**私たち自身**」であることを学びました。天からの言葉を聞いて生きることこそ、神の栄光に預かる生き方であると悟ったのです。そしてその時間いた声を彼は生涯忘れませんでした。それが「**これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である**」(2ペテロ1の17)

愛されている者として生きること。神の心にかなう者として選ばれ召された者として生きること(1の10)。聖霊様はいまも私たちに語り導いてくださっていることを覚えて、耳を澄ませて祈り続けたいと願わされます。